

重要文化財の維持について考える

佐渡は金山の産地として、江戸時代には、小判がここで製造され、徳川幕府を支えてきた地でもあることから、日本の経済史のなかでは忘れてはならない存在であるが、その佐渡にはさらにもう一つの重要な顔がある。それは、佐渡は八丈島や壱岐とともに流刑の島と定められ、順徳上皇、日蓮聖人、世阿弥など、都から政治犯が流されてくるようになり、流人が持ち込んだ貴族文化や能や鬼太鼓をはじめとする伝統芸能が栄えたところということだ。その佐渡島を観光してきた。

その観光地の一つが、真言宗のお寺である北豊山・長谷寺（チョウコクジ）だ。このお寺、最近、「ウサギ観音」というウサギをかたどった観音像がテレビで紹介され、全国的に有名になった。山の中に在る境内には、人手不足の解消のため草取りに沢山のウサギが放し飼いにされているというユニークなお寺だ。そんなことがあり最近では、そこそこ観光客が訪れるということであるが、このお寺にはご他聞にもれず、沢山の国指定、県の指定となっている重要文化財がある。観音像や不動明王像、仁王像などが、祭られているが、こうしたものを収納している本堂と始めとする、様々な建物の傷みがかなり進んでいたのは、別の意味での驚きだった。

私は、今、アメリカインディアン歴史について、勉強して居るが、そのインディアンたちが長い歴史の中で自身の文化を引き継いできたものがいま見直されている。これと同様、日本の文化についても、われわれの先祖の築いてきた伝統・文化・信仰と言ったものを大切に引き継いでいくことが夫々の世代に課せられた重要な責務ではないかと思う。とりわけ、佐渡が日本の歴史の中で果たした役割を考えると、そのもっている意味には計り知れないものがある。こうした文化を維持していくために、国も重要文化財としての指定をし、これを保存していく重要性を認識し文化財保護法を定めているが、果たして、その実態はどれほどその役割を果たしているのだろうか？

この長谷寺の場合、国や県・市から、こうした文化財を維持するための補助費が一切出ていないと言われた。そのため、庭の草取りをするためにウサギを飼っているのだとの説明だった。それがどれだけの効果のあるものかは定かでないが、しかし、重要文化財を保管し、維持し、そして、次世代に引き継いでゆくには、建物や、環境も含めた維持費を補助していく必要がある。

神社・仏閣の場合には、特定宗教の建物であったりすることもあるが、日本の伝統的な文化としての、あるいは、日本人の精神的な基盤としての重要性が認められるものについては、われわれの民族の文化の伝承の担い手としての文化財の保持の補助費用を有効に役立てることを検討してもらいたい。今年の文部科学関係予算を見ると、将来の文化の構築のために使われる科学技術予算の1兆円に比較すれば、過去の日本の民族の精神的な裏づけとして築かれてきた、文化芸術関係予算が、1,000 億と言うのは、余りにも、情けない。民族の持つ文化を維持して行こうという認識の無い民族に繁栄は考えられない。重要文化財に指定されると、補修はままならず、また、その費用も個人の負担とのこと、何所までそうなっているのか分からないが、とにかく、民族にとって重要なものだという考えで、政治主導で、日本の文化を次世代に引き継いでいくことの意義を認識し、是非とも超党派で、日本古来の庶民の文化・伝統と精神的なよりどころとなった神社・仏閣の維持・改修の費用の見直しのための議員立法チームの立ち上げをお願いしたい。でなければ、与党も野党も、日本の将来について何をしてくれる政治家の集まりなのか、その存在意義を疑ってしまう。



長谷寺の文化財

1. 十一面観音 3 体（国の重要文化財）
2. 十一面観音 1 体（県指定文化財）
3. 不動明王（県指定文化財）
4. こんがら童子（県指定文化財）
5. 仁王像（県指定文化財）
6. 五智堂棟札（県指定文化財）
7. 本堂（国登録有形文化財）
8. 鐘堂（国登録有形文化財）
9. その他 各種掛け軸、絵図、歌碑など多数

以下に、この長谷寺の紹介サイトを載せたので、是非覗いてみていただきたい。また、機会があれば是非尋ねていつて貰いたい。

真言宗 豊山派 北豊山 長谷寺

<http://sado-choukokuji.jp/>

長谷寺(ちょうこくじ)のウサギ観音

<https://sado-biyori.com/information/news10035/>

2019.07.14